

「ラスベガス」を訪ねて

あらゆるサービス業において、多様なサービスの必要性が叫ばれて久しい。顧客のニーズをいち早く察知し、それを取り入れる努力は企業の生き残りの鍵となる。介護業界においても例外でなく、新しい観点に着目したサービスが提供されているようだ。今回、利用者がパチンコ・パチスロを楽しめるユニークなデイサービス「ラスベガス」を訪ねた。



今回取材させていただいたデイサービスラスベガス町田木曾

ラスベガスは、日本シニアライフ株式会社が開東エリアを中心に約20店舗展開しているデイサービスで、ほとんどの店舗でパチンコや麻雀が楽しめるという。今回は、東京都町田市にある「デイサービスラス

ベガス 町田木曾」にうかがって日本シニアライフ株式会社代表取締役社長の森薫さんにお話しをうかがった。

デイサービスにパチンコ・パチスロ、麻雀などの設置した経緯を教えてください。

森社長：もともとデイサービスの管理者をしていたのですが、仕事の研修をかねてアメリカ・ネバダ州のカジノに行ったのですが、その時に高齢者の方が多く来られていて楽しまれていたのに衝撃を受けました。他にもフロリダにある高齢者の街と言われるサンシティなども視察したのですが、いずれの場所でも感じたのは高齢者の方々が、生き生きと娯楽を楽しんでいるという印象でした。更にアメリカカに行って感じたことは、どの



今回取材にご協力いただいた日本シニアライフ株式会社森薫社長

施設でも選ばれる工夫をしているということでした。

そういった海外の状況を見てヒントを得たということでしょうか。

森社長：そうですね。高齢者の方々にも興奮や感動が必要であって、デイサービスにもそういったものを取り入れようと思えば、パチンコなどの娯

楽設備の設置を始めました。それまで、デイサービスと行きたいという場所というより、どちらかというところ家族のために行く場所という印象でしたが、行きたくなる場所にしたという思いがありました。

パチンコ等を設置されたからの利用者の反応はどうでしたか。

森社長：現在、パチンコ、パチスロ、麻雀、カラオケ、シアタールームを設置しています。いずれも好評ですが、特にパチンコ、パチスロは、施設を利用し始めた方々にとって、麻雀やカードゲームのように複雑なルールや知識の必要なく遊べることからとても利用されています。ハンドルをひねれば遊べて、パチンコの遊び方が分からないという方はいませんので、馴染みやすいこと

から他の利用者との交流の入口の役割をしてくれています。

また、これらの娯楽設備を導入する前は、利用者の8割が女性でしたが、今では、男性利用者の方が多くなっています。

ご家族からの反応はどうでしたか。

森社長：当初は、「高齢者にギャンブルをやらせるとは何事だ」というご意見もありましたが（笑）、今では「笑顔が増えて明るくなった」、「介護度が下がって、家族の負担が軽減されている」など、大変うれしい声をいただいています。やはり気持ち（心）が元気になる体も元気になると思います。私たちは、ご利用いただいた方々を元気にする仕事をこれからも続けていきたいと思えます。

本日は貴重なお話をありがとうございました。

【取材後記】

ある調査によると、低貸し玉を中心に、パチンコ・パチスロホールは高齢者の憩いの場として機能しているという。本格的な高齢化社会を迎えるにあたって、ホールはその受け皿としての貴重なインフラとしてニーズが増すことが予想される。遊技業界でも創意工夫をし、より多くの高齢者に指示され、心を元気にする場所としての役割を担えればと思う。



パチンコ・パチスロを楽しんでる利用者の皆さん



利用者全員による体操の様様。デイの一日は運動から開始する